



読解力は学力の基本です。記事を読んで、問題にチャレンジしましょう。

コロナ下 高まる平屋人気



藤城建設が手掛けた平屋住宅。デザイン性の高さなども評価されている（同社提供）

平屋住宅の人气が高まっている。新型コロナウイルス禍で在宅勤務が普及し、土地面積が広い郊外を居住地に選ぶ人が増えたことが背景にある。子供部屋が不要になったシニア層に加え、核家族化で育児世帯の支持も拡大。人口減で住宅市場が縮小する中、メーカーは平屋を新たな商機と見込み販売を強化している。

「人々の在宅時間が増えて、掃除の頻度も増えている。上下の移動がない平屋は掃除など家事がしやすく、支持されています」。住宅メーカー、パナソニックホームズ（大阪）の担当者は話す。同社が2020年度に受注した平屋住宅数は、前年度より25%増えた。契約者は20〜30代が目立ち、20年度は全体の50%に達した。担当者は「現在の育児世帯は核

在宅勤務が浸透 郊外志向後押し

家族で育った世代。大家族の時代と違い、平屋のコンパクトさに違和感を感じない人が多いようです」と指摘する。

好調なのは同社だけではない。国土交通省によると、20年に全国で着工された平屋住宅は4万6千棟と、12年より1・5倍に増えた。住宅全体では41万棟と1割減ったにもかかわらずだ。専門家によると、バブル期に建てたマイホームが老朽化し子供が巣立った50、60代が多く建て替えている。

販売強化のため、住宅業界では専門ブランドを立ち上げる動きが加速。藤城建設（札幌市東区）は18年に「平家製作所」を設立した。同市中心部の地価上昇やコロナ禍を受け、郊外の土地を求める人が増え、契約数が拡大。昨年は受注の2割を平屋が占めた。

藤城建設は「平屋は屋根の雪下ろしの危険度が2階建てと比べて低く、暖房が必要な冬季の屋内の温度差が比較的少なく済む」。中心の価格帯は2階建てが1800万円前後であるのに対し、平屋は1500万円前後。コスト面も人気を後押ししている。

人口減少時代を迎え、今後の住宅需要は縮小が見込まれているだけに、平屋に活路を見いだす企業は増えそうだ。船井総合研究所の東慎也チーフコンサルタントは「平屋住宅市場への企業参入は加速するだろう。デザイン重視型や低コスト型など、タイプが多様化していくのでは」と話している。（酒井聡平）

『北海道新聞』2021年5月19日（水）朝刊（全道版）

(1) 平屋とは、どのような住宅のことですか。簡単に説明しなさい。

(2) コロナ下で平屋の人气が高まる理由として、どのようなことが挙げられていますか。2つ答えなさい。

(3) (2)で答えた以外に、平屋のよい点として、どのようなことが挙げられていますか。3つ答えなさい。
